第４２５号　1月号　２０２０.1.２０

岐阜県 商店街だより

発行元：岐阜県商店街振興組合連合会　岐阜市薮田南 5-14-53　ＴＥＬ：058-277-1107

謹賀新年

岐阜県商店街振興組合連合会　理事長　日比野　豊

新年明けましておめでとうございます。

令和２年、新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

昨年は、新天皇陛下の御即位という大きな出来事があり、元号も平成から令和へと変わりました。

また、経済面でも、消費税の引き上げ、軽減税率の導入、キャシュレス消費者還元事業が１０月より一斉にスタートし、対応レジへの切り替えや、軽減税率の複雑さ、キャッシュレス対応など様々な課題が浮き彫りとなり、大混乱の年でもありました。これらのことが商店街へも大きな影響を及ぼしたものの、２０２０年東京オリンピックに向けて、インバウンド観光客の増加や内需拡大により、緩やかではありますが景気が回復基調にあると言われています。

こうした中、県下全商店街が一斉に「新天皇奉祝イベント」として、奉祝ポスターを掲示し、景気回復の意味も込めて新天皇陛下御即位のお祝いを致しました。

岐阜県商業・金融課と連携を取り、県下１１箇所の商店街振興組合連合会の巡回指導を実施致しました。皆様から様々なご意見・ご要望をいただきましたので、今後に活かしていけるよう取り組んで参ります。

令和元年１０月よりスタートしたキャッシュレス・消費者還元事業が本格化し、当連合会のカード事業も更に忙しくなる事が予想されますが、皆様のご理解・ご協力を仰ぎながら進めていきたいと思います。

また、全国約４００箇所で開催されている「まちゼミ」は商店街活性化への効果は大きく、継続していく事が重要と考え、岐阜市、高山市に続いて大垣市で昨年１１月１４日に「第３回岐阜県まちゼミフォーラムｉｎ大垣」を開催致しました。市商連、行政、商工会議所の関係者の皆様のご尽力に御礼申し上げます。

松井洋一郎氏による「全国４００地域に広がる、これからのまちゼミ」と題した基調講演、八王子まちゼミの会　会長　今井治氏及び田辺のまちゼミ「まなべる」実行委員長　米倉富美子氏による事例発表、パネルディスカッション、名刺交換会を行い、まちゼミについての知識を深める事ができました。今後、フォーラムの内容のブラッシュアップ等の課題もございますが、今年もいずれかの都市で岐阜県まちゼミフォーラムを開催したいと思います。

また、これまで愛知県で開催していた、国及び中部経済産業局、中部経済産業局管内（愛知、三重、岐阜、石川、富山）の行政、商店街関係者約３０名が一堂に会し、商店街の現状、今後の在り方、補助制度の説明などを行う中部ブロック会議を岐阜で開催致します。

終わりに、今年１年が穏やかで、皆様にとって良い年となりますように心からお祈り申し上げまして、新年のご挨拶と致します。

冬の空気が熱気に一変！
第２０回瑞浪バサラカーニバル

◆主催：瑞浪バサラカーニバル実行委員会　◆主管：瑞浪市商店街連合会

１２月１４、１５日の両日、瑞浪駅前周辺では「バサラカーニバル」を開催しました。１９９９年に開催した「ウェルカム２０００年イベント」のバサラ踊りから始まったバサラカーニバルは、今回で第２０回を迎えます。今や瑞浪市の年末の風物詩として、県内はもとより、中部地方でも有数のダンスイベントにまで成長しました。１５日の本祭に伺いました。

■バサラに踊る

瑞浪駅の改札を出ると、目の前が「駅前踊り会場」になっていました。大音響とともに２０名ほどの若者がカラフルな衣装で演舞を披露しています。周囲にはダンスを見ようと大勢の人が立ち、スマートフォンで写真を撮ったり、声援を送ったりしていました。

華美な衣装は、特にバサラカーニバルの特徴です。もともとバサラの語源は南北朝時代に遡ります。当時、足利幕府内でも実力でのし上がった大名の中には、公家や朝廷の権威に反発して華美な服装で傍若無人な態度を取る者が出てきました。中でも東濃地方から出た土岐頼遠という人物は、古典「太平記」にも記載されている「ばさら大名」の代表格です。土岐氏が体現したバサラの名を冠したイベントに、華美な衣装は不可欠です。

踊り会場は駅前を含めて全７箇所あります。ダンスと呼ばないで「踊り会場」という名称なのもバサラカーニバルならではです。例年、１万人以上の出場者を集めるイベントですので、１箇所ではとても収まらず、分散して開催しています。今年の参加は、北は北海道から西は岡山県まで合計２６０チーム、人数は約１万１５００人でした。

駅前から南北に走る道路、市道公園線は踊り会場が北・中・南と３箇所も設営されていました。車道を舞台に各チームが演舞を披露し、お客さまは歩道から眺める形になります。演舞を表側だけではなく裏側からも見られるため、踊り好きにはまたとない会場になったようです。逆に演舞者のほうは息を抜かない演舞を求められる会場でした。

▲市道は演舞者・見物客でいっぱい

■おかみさん横丁

駅前踊り会場の横には「おかみさん横丁」というグルメブースを設置しました。商店街の女性が中心になっておいしいものを提供するおかみさん横丁も、バサラカーニバル恒例になっています。今回は全２９ブースが自慢の料理を販売していました。

目を引いたのが「きなぁたみずなみ」さんのブースです。きなぁたみずなみさんでは、瑞浪のブランド豚肉「瑞浪ボーノポーク」を扱っていましたが、２０１９年２月に豚コレラが発生したために入荷できなくなっていました。過日、生産を再開したため、きなぁたみずなみさんでも販売を再開し、バサラカーニバルでも販売することができました。当日は鉄板焼きや焼いたウィンナーなど、瑞浪ボーノポークを手軽においしく食べられる方法で提供していました。

▲中京商店真剣堂

いま一つ目を引いたのが「中京商店真剣堂」さんです。こちらは地元の中京学院大学附属中京高校の生徒さんが出店したものです。真剣堂は６年前に設立して以来、「東北支援」をコンセプトに活動しており、東北の商品を仕入れて販売し、売り上げの一部を義援金として東北に送っているそうです。当日も被災地の商品のほか、油麩入りカレーうどんを販売していました。

■バサラカーニバルの運営の秘訣

人口３万７０００人の瑞浪市に、１万人以上の踊り子が集まるバサラカーニバル。見物客を含めると更に増えます。**これだけの大規模なイベントが混乱なく進むのは、主催者だけでなく参加者も「運営側」としてバサラカーニバルの運営に携わっていることが挙げられます。**

前述した中京学院大学附属中京高校は、中京商店真剣堂以外にも１１００人のチームで演舞を披露しました。地域の方・参加される方、皆で作り上げているからこそ、バサラカーニバルは２０年もの間、愛され続けているのだと感じました。

巨大絵馬に甘酒のふるまい 高山でのおもてなし

山桜神社・高山本町会商店街振興組合・高山本町三丁目商店街振興組合

年末年始は多くの店舗がお休みを取られ、街も静かになります。そんな中、年間４００万人超の観光客が訪れる高山市は、逆ににぎわいを見せていました。１月２日、高山市に伺い、商店街の様子を拝見しました。

■大きな絵馬に願いを

「古い町並み」から宮川を挟んで西側を南北に走るのが本町通り商店街です。約７００メートルの通りに、一丁目から四丁目まで商店が並んでいます。さすがに古い町並みほどではありませんが、こちらも観光客とおぼしき方々が散策していました。

本町二丁目で見つけたのは、高さ約３メートルの巨大な絵馬です。上部に「賀正」とあり、真ん中には新年をことほぐイラストが添えられています。目を引くのは、絵馬に油性ペンで書かれた数々の願い事です。「日本一の建築士になる」、「みんなが笑顔で暮らせますように」「オレ流」など、それぞれ今年の願いや決意を記していました。

▲巨大な絵馬

こちらの願い事は、街を訪れた方が書いたものです。絵馬のそばには赤や青、緑色の油性ペンが用意してあり、誰でも書けるようになってい

るのです。わたしが取材しているときにも大勢の人が絵馬の前に立ち止まって、願い事を書いていました。

巨大絵馬を用意したのは、商店街と山桜神社の方です。山桜神社は、江戸時代にお殿さまを救った「山桜」という馬を祀った神社で、毎年８月には「馬頭の絵馬市」も開催しています。絵馬とゆかりの深い神社の巨大絵馬、願い事が叶うような気がします。巨大な絵馬に願い事を書くという、**めったにできない体験を提供するのも、お客さまを迎えるおもてなしの一種といえるでしょう。**

■温かい飲み物のおもてなし

二丁目から更に北に行くと本町三丁目に入ります。観光客の姿が徐々にまばらになってくる中、「甘酒いかがですか」という声が聞こえてきました。高山本町三丁目商店街の女性部が中心になって開催している「新・あったまーる処」です。甘酒のほか、コーヒー、お神酒など温かい飲み物を無料で振る舞っていました。

お話を伺うと、新年の無料サービスは３０年以上実施しているそうです。三丁目商店街の初売りに来てくださったお客さまをおもてなしすることを目的に、会場の設置は商店街の男性も手伝い、運営を女性部が担当しています。

「新・あったまーる処」の役割は、飲み物の無料配布だけではありません。初売り期間中に三丁目商店街でお買い物をすると、購入金額を問わず、レシート一枚につきくじを一回引くことができるのです。

▲レシート１枚でくじ１回

「広告宣伝費がないため、大々的にアピールはできませんが、店舗で会計するときにお店の方に伝えてもらっています」と、「新・あったまーる処」の運営を担当している松葉さんはおっしゃいます。この取材の最中にも、「くじを引けると聞いたのだけど」と何名ものお客さまが訪れていました。

本町三丁目は古い町並みからは少し離れており、観光客が大勢訪れるような商店街ではありません。その点、観光客向けの大きなアピールをするよりも、いつも利用してくれる地元客向けのＰＲが重要になってくると感じました。

今年の年始は雪がなく、地元の方によると「お正月らしくないお正月」だそうです。**それでも高山市の商店街ではそれぞれ工夫を凝らしてお客さまをおもてなししていました。**このような地道な活動が商店街とお客さまとを結び付けているのではないでしょうか。

アンティーク商品が柳ケ瀬に集結
サンビル蚤の市

主催：サンデービルヂングマーケット実行委員会・岐阜柳ケ瀬商店街振興組合連合会

１２月１５日、柳ケ瀬商店街一帯では２０１９年最後の「サンデービルヂングマーケット」（サンビル）を開催しました。毎月第３日曜日に開催し、多くの来街者を集めている定番のイベントですが、今回から新たな取り組みが始まりました。

■サンビル蚤の市初開催

新たに始まったのは、「サンビル蚤の市」(蚤の市）というコーナーです。これまでのサンビルでは、飲み物やお菓子、アクセサリー、雑貨などを扱うブースが出店していました。これらの商品は「手作り」が条件で、中古の商品を扱うことはありませんでした。蚤の市では逆に、「古道具」のみを扱うブースに限定して、出店を募ったのです。

柳ケ瀬商店街は、東西を貫く通りが大きく５本走っています。サンビルでは真ん中の２本の柳ケ瀬本通りと日ノ出町通りをメイン会場として開催してきました。蚤の市ではいちばん北の弥生町と小柳町とを結ぶ通りが会場になりましたので、更に来街者の回遊性が高まりました。

▲にぎわう蚤の市

当日、蚤の市の出店者は１８店舗に上りました。遠くは奈良県や石川県から出店された方もいたそうです。扱っている商品を見ると、「古道具」というだけあって、どれも年代物が揃っています。例えば、どこかの旧家に保管されていたと思われる能面、さび付いた金属製の手桶、角が擦り切れた革製のスーツケースなど。見て歩くだけでも楽しいものばかりです。

中には、記者が子どものころに見たことがあるアルマイトの食器や、ホーローの看板なども販売していました。想像以上にきれいに保管されていたため、とても古道具とは思えないものも。懐かしさとともに、わが身の年齢も感じてしまいました。

■出店者さんとお客さまとの距離

サンビルの良さは、なんといっても出店者さんとお客さまとの距離が近いことです。過去、取材にお伺いし何度も目にしてきたのは、お客さまと気さくに会話する出店者さんの姿です。要因の第一として考えられるのは、店主の専門性です。サンビルで扱う商品は先述のとおり「手作り」が基本ですので、店主に確認しながら購入したいというお客さまの心理が働いていると考えられます。

▲出店者さんとお客様との会話

蚤の市のブースでも出店者さんとお客さまとが会話している光景をよく見掛けました。これも手作りの商品と同様に、どのような商品なのか、本来の用途以外に使い道はないのかなど、店主の専門性をお客さまが頼りにしているのです。

要因の第二は、お客さまとの物理的な距離です。サンビルにしろ、蚤の市にしろ、商店街の通りにブースを出しますので、出店者さんとお客さまとの間を隔てる扉や壁がありませんし、出店者さんとお客さまと同じ平面に立っていますので、視線の高さが同じということもあります。

翻って、商店街の各店舗を考えた場合、上記の「店主の専門性」については商店主の方が持っているといえます。一方で第二の要因の「物理的な距離」については店舗の構造上、どうしてもイベント出店者に劣る部分が出てきてしまいます。言い古されたことですが、敷居の高さを下げ、商店主の専門性や人柄を知ってもらう取り組みが重要ではないでしょうか。

今回好評だった蚤の市は、２０２０年のサンビルでも引き続き開催予定です。毎月第３日曜日、柳ケ瀬商店街が活気に包まれる日は、ますますにぎわいそうです。

【取材・記事　中小企業診断士　山田圭介】

◆　商店街近代化講習会の報告

令和元年１１月６日（水）１４時～１６時、多目的交流イベントハウス（大垣市郭町２丁目２８番地）に於いて、大垣市の組合員を対象に商店街近代化講習会を開催しました。当事業は、時代のニーズに適合した魅力ある商店街づくりを進めるため、自己啓発を図り、人材の養成、研修を行うことが目的です。

今回の講習会は、大垣ビジネスサポートセンター（以下ガキビズ）の正田嗣文センター長に「講師から見た商店街の魅力の高め方」をテーマにご講演頂きました。当日は２０名以上の組合員が集まり実施しました。

ガキビズは、地域での雇用や新しい産業の創出を促進するとともに、地元の頑張る中小企業を支援するため、平成３０年７月に開設されました。継続してサポートするため、相談は何度でも無料とし、強みやセールスポイントを見つけ、お金をかけずに売上を伸ばす方法を一緒に考えて支援します。

例えば、認定外保育園を開業した企業から、優先的に契約企業の従業員の園児を受け入れる「企業主導型保育園」を周知し、園児数を増やしたいという相談があったそうです。ガキビズではこの企業に対して、大垣市内では初の看護師が常駐していることや、ＪＲ大垣駅から一番近いことを強みとしてコンセプトを明確にし、新聞やテレビを通した情報発信のサポートを行いました。これにより、お金をかけずに運営する全ての保育園の定員を満たしました。

▲正田センター長の講演の様子

正田センター長は、商店街の魅力を高める為には、各個店が自らの個性を認識し、その分野の専門家としてナンバー１、オンリー１になることで商店街全体が価値あるものとして活気づくといいます。大垣市商店街の実状に合わせた具体的な支援事例をご説明頂けたことで、講演後のアンケートでは、組合員の皆様から多くの高評を頂けました。

岐阜県下のビジネスサポートセンターは大垣市と関市に２箇所あり、市外からの相談も受け付けています。伴走型で、起業から新分野進出まで幅広くサポートを受けられるので、ぜひご相談下さい。

【記事　県商連　組合事業推進室　松田亮祐】

■青年部・女性部研修会のお知らせ

高山市商店街振興組合連合会
日　時：令和２年２月７日(金)　１９：００～２１：００
テーマ：「環境問題と商店街について」
講　師：カルネコ株式会社　代表取締役社長　加藤孝一氏

日　時：令和２年２月１７日(月)　１９：００～２１：００
テーマ：「思わず欲しくなる販促心理学」
講　師：ライズマーケティングオフィス株式会社　代表取締役社長　田中みのる氏
開催場所は共にまちひとぷら座かんかこかん(高山市上二之町４４－４)

岐阜県商店街だよりは、岐阜県からの補助金を受けています。